

マテリアリティ

旭化成が目指す姿

当社グループは、グループビジョンに掲げている「健康で快適な生活」と「環境との共生」の実現を通して社会に新たな価値を提供すべく事業活動を行っています。持続可能な社会に貢献すると同時にそれを当社グループの企業価値の向上につなげていく、2つのサステナビリティの好循環の実現を目指しています。社会の持続性の確保に寄与する価値を提供することで、高い収益性を伴う持続的な企業価値向上をもたらし、それがさらなる挑戦につながるという信念のもと、当社グループは社会環境の変化に応える製品やサービスの提供に努めてきました。これからも、世界の人の生活に寄り添いながらイノベーションを追求し、持続可能な社会に貢献する製品やサービスを提供し続けます。

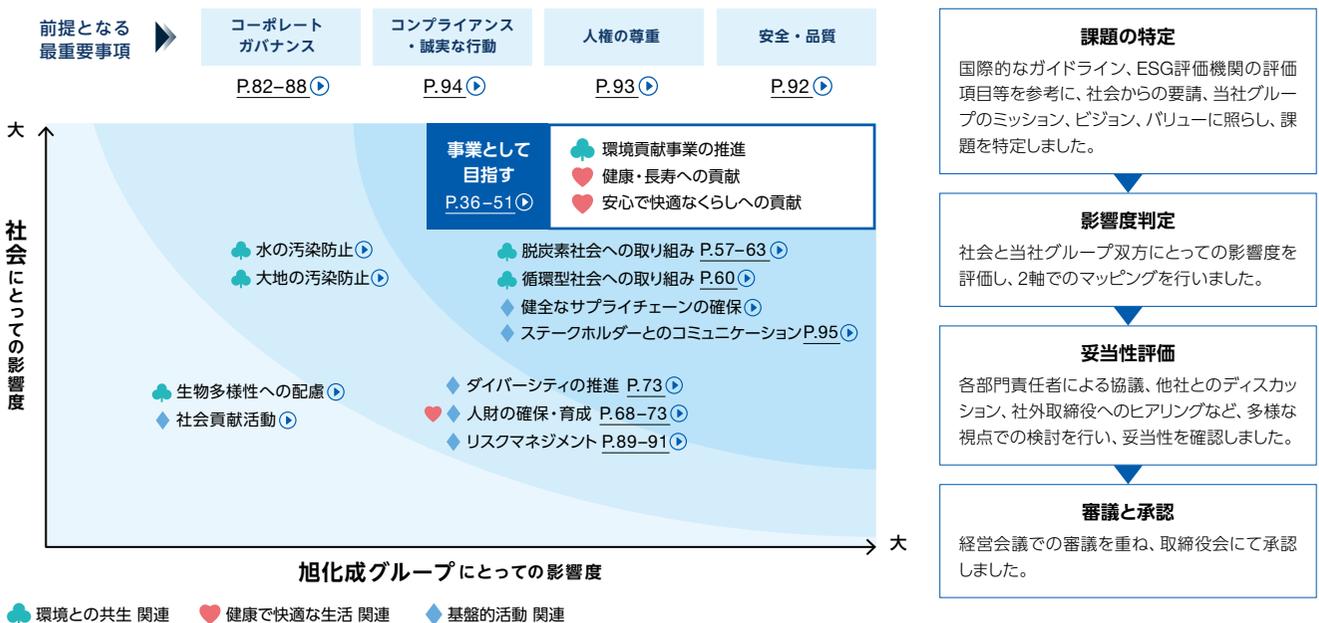
サステナビリティに関する当社グループのスタンスを明確にするとともに、社内の共通理解をさらに高め、持続可能な社会への貢献のための行動を加速させるため、2021年にサステナビリティ基本方針を制定しました。本方針は、「概念」で留まることのないよう、サステナビリティに関する要素を具体的に示しています。

サステナビリティ基本方針のポイント

- 当社グループが目指す2つのサステナビリティ「持続可能な社会への貢献」「持続的な企業価値向上」の好循環を実現
- 当社が目指すサステナビリティの実現に向けた最適なガバナンスの追求
- 持続可能な社会への貢献による価値創出
- 責任ある事業活動
- 従業員の活躍の促進

マテリアリティと特定プロセス

2017年度に、当社グループが重点的に取り組むべき重要課題・テーマを、下記のプロセスを経て旭化成グループのマテリアリティとして特定しました。経営環境の変化に応じて見直しを図ります。



経営戦略への組み込み

マテリアリティは、目指す姿の実現に向け、経営戦略に組み込まれてこそ意味があります。そこで、中期経営計画ではマテリアリティに関する、非財務KPIの設定と、当社グループの長期的な価値創造に資する5つの価値提供分野ごとに取り組む課題の具体化を行いました。

マテリアリティ	非財務KPI (指標)	目指す姿 (目標)
事業として目指す	GHG排出削減貢献量	2030年度 2倍以上 (2020年度比)
脱炭素社会への取り組み	GG10関連有効特許割合	2030年度 50%超
	GHG排出量	2030年度 30%以上削減 (2013年度比)
人財の確保・育成	デジタルプロフェッショナル 人財数	2024年度 10倍 (2021年度比)
	高度専門職人数	2024年度 360名
ダイバーシティの推進	ラインポスト+高度専門職における女性比率	2030年度 10%

他マテリアリティのKPIや取り組みについては、マテリアリティ図内の各項目のリンク先に詳細を記載しています。

次ページでは、価値提供分野ごとの機会の抽出、価値創造までの流れを明確にしています。

価値提供分野別の価値創出までの流れ

